

在宅での取り組み

「コミュニケーションの工夫」

高度難聴の患者さんとの円滑なコミュニケーションを図るため、当院では独自に作成した A3 サイズのコミュニケーションボードを活用しています。

自己紹介や困りごとの確認、痛みの程度を把握するためのスケールなどを掲載した各種シートを用い、患者さんの想いや体調の変化を丁寧に伺うことを心がけています。



また、ボディランゲージに加え、コミュニケーションボードやホワイトボードを併用することで、言葉だけでは伝えにくい症状やご希望も把握できるよう努めています。

当院では、お一人おひとりの状況に合わせたコミュニケーション方法を工夫し、安心して在宅医療を受けていただける環境づくりに取り組んでいます。

今後も患者さんお一人おひとりに寄り添い、安心して在宅医療を受けていただけるよう、より良いコミュニケーションの実践に努めてまいります。

▲ 当院自作のコミュニケーションボードを使用する
大垣院長